

JGGA

Japan Generic
Medicines Association

NEWS

2026年 令和8年

5月 | 217号

C O N T E N T S

New
President

新社長ご紹介

01 沢井製薬株式会社



医療制度関連情報 TOPICS

06 医療制度関連情報TOPICS



会員会社だより

02 ニプロ株式会社

知っ得!豆知識



09 厚生労働省
医薬品安定供給等管
理システムについて

information

お知らせ

04 自民党
「第25回ジェネリック医薬品の将来を考える会」
について

11 活動案内

12 編集後記

社長就任ご挨拶

沢井製薬株式会社
代表取締役社長 中手 利臣 氏



本年4月1日付で、沢井製薬株式会社の代表取締役社長に就任いたしました中手 利臣でございます。

弊社はこれまで、全社を挙げて企業倫理の徹底とガバナンスの再構築に取り組んでまいりました。信頼性保証の責任者として組織改革に携わる中で、医薬品の安定供給こそが我々が果たすべき社会的使命であることを、改めて深く胸に刻んでおります。

現在、ジェネリック医薬品は日本の医療インフラとして定着した一方で、業界全体は構造的課題をはじめとする激しい環境変化の渦中にあります。こうした状況下で社会からの信頼をより確かなものにするためには、コンプライアンスと倫理意識を礎とし、品質に対する誠実な姿勢を堅持して安定供給に邁進し続けることと考えております。

弊社の企業理念に掲げる「真心を込めた医薬品を通じ、人々の健やかな暮らしを実現する」という一節にある「真心」とは、一錠の薬の先にいらっしゃる患者さんを想う「想像力」にほかなりません。品質の追求はもちろん、患者さんの服用性や医療現場での扱いやすさを高める製剤工夫など、独自の付加価値を追求し、医療現場が真に必要とする本質的な価値の創造に挑戦してまいります。こうした取り組みの積み重ねこそが、持続的な企業価値の向上に繋がるものと確信しております。

「なによりも患者さんのために」という理念のもと、皆様と共にジェネリック産業の更なる発展と、人々の健やかな暮らしの実現に貢献できるよう誠心誠意努めてまいります所存です。

新体制に対しまして、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



ニプロ株式会社

<https://www.nipro.co.jp/>

創 業 年 : 1947年
 設 立 年 : 1954年7月8日
 代 表 者 : 代表取締役会長 佐野 嘉彦
 従 業 員 数 : 従業員数 4,563名 (2025年度3月末時点)
 (男性3,345名/女性1,218名)

【経営理念】

未来に向かって、
 世界の人々の健康を支え、
 医療ニーズに応える商品、技術
 及び事業の創造革新を行い、
 社会に貢献し、自己実現を図る。

ニプログループは、「すべてのいのちに、よろこびを。」というブランドステートメントのもと、医療機器、医薬品、ファーマパッケージング、再生医療の各事業を展開する総合医療メーカーとして事業を展開しています。医療現場の声に真摯に向き合い、研究開発から製造、供給までを一貫して担う体制を強みとして、国内外の医療現場を支える役割を担ってきました。

この中で医薬品事業は、ジェネリック医薬品を中心に、医療の質と持続可能性を支える重要な役割を担っています。ニプロでは、自社ブランドの後発医薬品に加え、長年にわたり培ってきた製剤技術や生産ノウハウを活かし、医薬品受託製造 (CDMO) にも注力しています。特に注射剤分野においては、無菌製剤という高度な製造管理が求められる領域で、確かな実績を積み重ねてきました。

一方、後発医薬品業界を取り巻く環境は近年、大きく変化しています。品質問題や供給不安を背景に、社会からはこれまで以上に高いレベルでの信頼性と安定供給が求められています。また、薬価改定やコスト構造の変化により、単に品目数や数量を追求するのではなく、持続可能な製造・供給体制をいかに構築するかが、各社共通の課題となっています。こうした環境下において、製造現場の果たす役割はますます重要になっています。

こうしたニプロ医薬品事業の中核拠点の一つが、滋賀県に立地するニプロファーマ 近江工場です。近江工場は、注射剤を中心とした無菌製剤の製造を担い、感染症治療や救急医療など、医療現場に不可欠な医薬品を安定的に供給する役割を担っています。ニプロでは、近江工場を将来にわたる重要拠点と位置付け、継続的な設備投資や生産能力の強化、品質管理機能の高度化を進めてきました。2024年度には抗菌薬注射剤棟が稼働開始しており、さらに2026年4月にバイアル棟を竣工いたしました。

同工場では、GMP遵守を前提としながら、設備やシステムだけでなく、人材育成や技術継承にも力を入れることで、医薬品の信頼性を支える基盤づくりを進めています。また、自社製品にとどまらず、受託製造を通じて業界全体の安定供給に貢献することも、近江工場の重要な使命です。

ニプロは、日本ジェネリック製薬協会の一員として、製造現場から業界全体の信頼回復と持続的発展に貢献していきたいと考えています。近江工場での取り組みは、その象徴であり、本当に必要とされる医薬品を、責任をもって作り続け、着実な歩みを続けてまいります。

自民党「第25回ジェネリック医薬品の将来を考える会」について



左から：神谷 政幸事務局次長、藤井 基之顧問、上川 陽子会長、山田 美樹事務局長、本田 あきこ事務局次長

2026年4月10日（金）、自民党の議員連盟「第25回ジェネリック医薬品の将来を考える会」（会長：上川 陽子 衆議院議員）が開催されました。

今回は、中東イラン情勢の影響と医薬品の原薬の確保について厚生労働省と日本薬業貿易協会（日薬貿）、からヒアリングを行いました。

厚生労働省からはサプライチェーンの強靱化に向けた取り組みについて説明がありました。

日薬貿からは、次のような点について説明がありました。

- ・ 原薬の海外からの輸送は船便ではなく航空輸送が主力となるため、中東情勢の緊迫化による航路変更などの影響を受けています。
- ・ さらに、中間体から原薬の製造に至るまでのいずれかの工程で輸入に頼っている割合は7割程度になり、ジェネリック医薬品の原薬製造国に関する分析によると原薬製造国が1カ国のみだったのは106成分に上り、製造国別の成分数では、中国19成分▽イタリア15成分▽インド・韓国11成分―などが並んでいます。
- ・ 安定性の高い原薬でも分解物の増加などの品質低下が起こり得ることから備蓄での対策は限度があります。

出席議員からの発言では、下記のようなものがありました。

- ・医薬品備蓄体制整備事業で備蓄の補助は、製剤を対象にしているので原薬には適用できないとの指摘
- ・原薬調達を特定の国に頼る状況に対して、安定供給の確保や経済安全保障の観点から懸念を示すというご意見

上川会長からは、「中東情勢による安定供給への影響を見る場合、原薬の問題についても取り上げ、出発原料まで見ていかなければいけないのではないか」との問題意識が示されました。

最後に事務局より、次回会合では、骨太の方針に向けた議員連盟の提言案について検討を行うと説明がありました。

(取材：日本ジェネリック製薬協会 広報委員会)

【会議等情報】

● 中央社会保険医療協議会総会

<4月8日 第649回>

議題

1. 部会・小委員会に属する委員の指名等について
2. 費用対効果評価専門組織からの報告について
3. 医薬品の新規薬価収載等について
4. 最適使用推進ガイドラインについて
5. DPCにおける高額な新規の医薬品等への対応について
6. 在宅自己注射について
7. 令和8年度改定を踏まえたDPC/PDPSの現況について
8. 令和8年度診療報酬改定における臨時的なDPC準備病院の募集について
9. 調査実施小委員会からの報告について
10. 答申書附帯意見に関する事項の検討の進め方について
11. 再生医療等製品の医療保険上の取扱いについて

掲載ページ：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_72294.html

● 社会保障審議会

<4月27日 第34回>

議題

1. 健康保険法等の一部を改正する法律案について（報告）
2. 令和8年度厚生労働省予算について

掲載ページ：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_72833.html

● 令和8年度診療報酬改定について

厚生労働省 令和8年度診療報酬改定ページ：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_67729.html

について、前月掲載以降に下記の通り更新がありました。

第2 改定の概要

- ・ベースアップ評価料に係る特設ページについて（4月21日）

第3 関係法令・通知など（1）共通

令和8年4月以降の改正に関しては別途、下記ページにまとめられています。

- ・令和8年度診療報酬改定について（令和8年4月以降の改正分）

掲載ページ：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188411_00074.html

1.算定方法. 施設基準

- ・診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について（通知）（5月1日訂正後）
- ・基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて（5月1日訂正後）
 - ・別紙25（4月2日訂正後）
- ・特掲診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて（5月1日訂正後）
 - ・様式85（4月2日訂正後）
 - ・様式95～100（5月1日訂正後）
 - ・様式101・102（歯科技工所）（5月1日訂正後）
 - ・様式103・104（調剤）（5月1日訂正後）
- ・令和8年度診療報酬改定に係る施設基準届出チェックリストの送付について（4月20日保険局医療課事務連絡）
- ・令和8年度診療報酬改定に係る施設基準届出チェックリストの一部訂正について（5月1日保険局医療課事務連絡）
 - ・別添1（病院用）（5月1日訂正後）
 - ・別添2（医科診療所用）（5月1日訂正後）
 - ・別添3（歯科診療所用）（5月1日訂正後）
- ・令和8年度診療報酬改定におけるベースアップ評価料に係る施設基準の届出について（4月24日）
- ・令和8年度診療報酬改定関連通知及び官報掲載事項の一部訂正について（5月1日）

3.疑義解釈・訂正通知

- ・「疑義解釈資料の送付について（その2）」の一部訂正について（4月9日）
- ・疑義解釈資料の送付について（その3）（4月20日）
- ・疑義解釈資料の送付について（その4）（4月21日）
- ・令和8年度診療報酬改定関連通知及び官報掲載事項の一部訂正について（4月2日）
- ・令和8年度診療報酬改定関連通知及び官報掲載事項の一部訂正について（5月1日）

4.給付調整

- ・「医療保険と介護保険の給付調整に関する留意事項及び医療保険と介護保険の相互に関連する事項等について」の一部改正について（5月1日訂正後）

5.その他

- ・「診療報酬請求書等の記載要領等について」等の一部改正について（5月1日訂正後）
 - ・別表Ⅰ（5月1日訂正後）
 - ・別表Ⅱ（5月1日訂正後）
 - ・別表Ⅳ（5月1日訂正後）
 - ・別表Ⅴ（5月1日訂正後）
 - ・別添1（5月1日訂正後）

第5 関係法令・通知等 (3)

11.訪問看護ステーション

- ・訪問看護療養費に係る指定訪問看護の費用の額の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について（4月2日訂正後）
- ・訪問看護ステーションの基準に係る届出に関する手続きの取扱いについて（5月1日訂正後）

第6 電子点数表等

診断群分類 (DPC) 電子点数表

- ・診断群分類 (DPC) 電子点数表 (正式版) (4月15日更新)



厚生労働省

医薬品安定供給等管理システムについて

厚生労働省では、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）第18条の4の規定に基づき、医薬品の製造販売業者から、個別品目の出荷の制限（限定出荷）や出荷の停止（供給停止）といった供給不足の発生について届出を受け、エクセルファイルの一覧表として整理し公開しておりました。

令和8年3月31日より、供給状況報告の内容を医療現場や国民の皆様により迅速かつ簡便にお届けするとともに、製造販売業者における報告に係る事務負担を軽減するため、「医薬品安定供給・流通確認システム」の稼働が開始されております。従来のエクセルファイルの公表に加え、システムからも供給状況に係る各種情報の確認が可能となっております。ぜひ、新しく公開されたシステムをご確認ください。

【厚生労働省ホームページ：医療用医薬品供給状況】

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/kouhatu-iyaku/04_00003.html

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

文字サ

テーマ別を探す | 報道・広報 | 政策について | 厚生労働省について | 統計情報・白書

ホーム > 政策について > 分野別の政策一覧 > 健康・医療 > 医療 > 医療用医薬品供給状況

医療用医薬品供給状況報告

・医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(昭和35年法律第145号)第18条の4の規定に基づき、医薬品の製造販売業者から、個別品目の出荷の制限(限定出荷)や出荷の停止(供給停止)といった供給不足の発生について届出を受け、エクセルファイルの一覧表として整理し公開しています。
 ・令和8年3月31日より、供給状況報告の内容を医療現場や国民の皆様により迅速かつ簡便にお届けするとともに、製造販売業者における報告に係る事務負担を軽減するため、「医薬品安定供給・流通確認システム」の稼働を開始いたしました。従来のエクセルファイルの公表に加え、システムからも供給状況に係る各種情報の確認が可能となっております。
 ・掲載されている最新のファイルで情報の更新があった品目については、右端の「今回掲載時の更新有無」の欄に、「New」と記載しています。
 ・エクセルファイル及びシステム内で用いられている用語の説明は以下のとおりです。

<「出荷対応」の状況>

①通常出荷	全ての受注に対応できている、かつ十分な在庫量が確保できている状況
②限定出荷(自社の事情)	自社の事情により、全ての受注に対応できない状況
③限定出荷(他社品の影響)	他社品の影響等にて、全ての受注に対応できない状況
④限定出荷(その他)	その他の理由にて、全ての受注に対応できない状況
⑤供給停止	供給を停止している状況

<「出荷量」の状況>

Aプラス、出荷量増加	比較対象期間の出荷量又は市場予測による予定出荷量の概ね110%以上の出荷状況
A、出荷量通常	比較対象期間の出荷量又は市場予測による予定出荷量の概ね80%以上110%未満の出荷状況
B、出荷量減少	比較対象期間の出荷量又は市場予測による予定出荷量の概ね80%未満の出荷状況
C、出荷停止	市場に出荷していない状況
D、薬価削除予定	「薬価基準収載品目削除願」を提出し、薬価削除に向けた対応を行っている状況(既に薬価削除承認が得られている)

医療用医薬品供給状況(令和8年5月8日現在)

医薬品供給状況一覧 | 医薬品安定供給状況等管理システム

※5月12日(火)19時から21時までメンテナンスを実施いたします。
 メンテナンス中は医薬品安定供給状況等管理システムのご利用を一時停止させていただきます。恐れ入りますが、該当時間帯を避けてご利用ください。



【厚生労働省ホームページ：医薬品供給状況一覧！医薬品安定供給状況等管理システム】

<https://iyakuhin-kyokyu.mhlw.go.jp/public/supply-status-list>

医薬品供給状況一覧
GビズID未連携

≡ 検索条件

- 成分名 ▼
- 規格単位 ▼
- 製品名 ▼
- YJコード ▼
- 製造販売業者名 ▼
- 販売業者名 ▼
- 出荷状況 ▼
- 薬剤区分 ▼
- 薬効分類 ▼
- 製品区分 ▼
- (重要)供給確保医薬品 ▼
- 基礎的医薬品 ▼
- 情報更新日 ▼
- お気に入り ▼

検索結果 **16958** 件

絞り込む

検索条件クリア

お知らせ設定

操作マニュアル

検索結果 並び替え YJコード 昇順 ↓ Excel出力

ラボナール注射用0.3g
(YJコード：1115400X1027)

通常出荷

履歴の表示

🔖+

情報更新日：2025/07/22

薬剤区分 3：注射薬	基礎的医薬品 2：対象外	製造販売業者名 ニプロ
薬効分類 全身麻酔剤	(重要)供給確保医薬品	販売業者名
成分名 チオベンタールナトリウム	製品区分 5：その他医薬品	
規格単位 300mg 1管	薬価収載日 1952/05/01	

🔍類似品を探す

ラボナール注射用0.5g
(YJコード：1115400X2023)

通常出荷

履歴の表示

🔖+

情報更新日：2025/03/11

薬剤区分 3：注射薬	基礎的医薬品 2：対象外	製造販売業者名 ニプロ
薬効分類 全身麻酔剤	(重要)供給確保医薬品	販売業者名
成分名 チオベンタールナトリウム	製品区分 5：その他医薬品	
規格単位 500mg 1管	薬価収載日 1951/08/01	

🔍類似品を探す

イソゾール注射用0.5g
(YJコード：1115403D3043)

通常出荷

履歴の表示

🔖+

情報更新日：2023/05/12

薬剤区分 3：注射薬	基礎的医薬品 2：対象外	製造販売業者名 日医工
薬効分類 全身麻酔剤	(重要)供給確保医薬品 C	販売業者名
成分名 チアマラールナトリウム	製品区分 5：その他医薬品	
規格単位 500mg 1瓶 (溶解液付)	薬価収載日 1958/03/10	

🔍類似品を探す

JGA NEWS 10



活動案内

2026年
令和8年

5月 | 217号

日誌

開催日	委員会	開催場所	WEB併用	
4月	1日	知的財産委員会	WEB開催のみ	
	7日	総務委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室	○
	8日	流通適正化委員会	〃	○
	9日	薬価委員会（幹事会）	〃	○
	13日	COP委員会	〃	○
	14日	広報委員会コミュニケーション広報戦略部会	〃	○
	15日	薬制委員会（幹事会）	〃	○
		政策実務委員会	〃	○
	16日	正副会長会・理事会	〃	○
	17日	経営層向け研修会	ベルサール東京日本橋	○
	20日	広報委員会ニュース・講演部会	日本ジェネリック製薬協会会議室	○
	22日	安全性委員会（幹事会）	〃	○
		安定供給責任者会議	〃	○
	24日	品質委員会（幹事会）	〃	○
		品質委員会全体会議	〃	○
		倫理委員会	WEB開催のみ	
		国際委員会	〃	
	27日	総括製造販売責任者会議	〃	
28日	薬価委員会（幹事会）	日本ジェネリック製薬協会会議室	○	

今月の予定

開催日	委員会	開催場所	WEB併用	
5月	12日	知的財産委員会	WEB開催のみ	
	14日	くすり相談運営委員	ライフサイエンスビル	○
		薬価委員会（幹事会）	日本ジェネリック製薬協会会議室	○
	15日	総務委員会	〃	○
	18日	薬制・品質・製剤研正副委員長会	〃	○
	19日	信頼性向上PJ常任委員会	〃	○
	20日	薬制委員会（幹事会）	〃	○
		薬制委員会全体会議	〃	○
		広報委員会コミュニケーション広報戦略部会	〃	○
	22日	薬事関連委員連絡会	〃	○
		文献調査検討チーム会議	〃	○
	26日	正副会長会・理事会・定期総会・特別講演会	ベルサール東京日本橋	○
	27日	安定供給責任者会議	TKP東京駅カンファレンスセンター	○
	28日	政策実務委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室	○
		安全性委員会（幹事会）	〃	○
		広報委員会ニュース・講演部会	ライフサイエンスビル	○
	29日	薬価委員会（幹事会）	日本ジェネリック製薬協会会議室	○
		薬価委員会	〃	○
	環境委員会	〃	○	



桜の季節が例年になく長く感じられた今年の春は、国内外から多くの人々を迎え、各地でにぎわいを見せた。特に本年は、訪日外国人の増加が顕著であり、桜の名所に限らず、都市部・地方ともに観光需要の回復を実感する機会が多かったのではないだろうか。一方で、そのにぎわいは「楽しさ」と同時に「混雑」という新たな課題をも浮き彫りにしている。春の風物詩である花見ですら、時間や場所を選ぶ必要があるという変化は、私たちの生活様式の変容を象徴しているようにも思える。

こうした季節の動きと並行して、社会の足元ではさまざまな変化が静かに進んでいる。4月の新年度入りに合わせて、生活に関わる制度改正や運用変更が相次いだ。例えば自転車に対する反則金制度の導入などは、日々の行動に直接影響するものであり、改めてルールの意識を問い直す契機となった。また、教育や子育て支援の充実なども含め、社会の仕組みは着実に更新が続いている。こうした変化は一つひとつは小さくとも、積み重なることで生活や価値観に影響を及ぼしていく。

一方、経済環境に目を向ければ、物価上昇の流れは依然として継続している。食品や日用品、外食など、日常に密着した分野での価格改定は、消費行動にも変化をもたらしている。節約志向が広がる中で、限られた支出の中でも「価値」を重視する動きが強まっている点は注目される。単なる低価格ではなく、納得感や体験価値が選択の基準となりつつあることは、今後の市場動向を考える上でも重要な視点であろう。

興味深いのは、こうした先端的な動きと並行して、「懐かしさ」を感じさせる現象も見られる点である。いわゆる平成期の文化やアイテムが再評価され、若い世代を中心に新たな形で広がりを見せている。過去の価値が現代的に再解釈される動きは、成熟社会における消費や文化の一つの特徴ともいえるだろう。

業界においては、診療報酬等の改定や選定療養の一部負担増、OTC類似薬に係る保険外併用療法の導入など、様々な変化が訪れる。さらに、昨今の石油にかかる世界情勢にからみ、資材や原料などについて様々な影響がでてくるかもしれない。他業種ではあるが、とあるお菓子のパッケージについて、カラーから白黒に変更するニュースは記憶に新しい。安定的な供給のための仕様変更であるが、結果としてコストダウン・価格維持などの効果もあるのではないかと個人的には考える。当たり前のことが当たり前でなくなり、新しいことが当たり前になる。医薬品・医療業界においても、関連して考えられることがあるのではないか。

このように、2026年の春は、にぎわいの回復、生活の変化、経済環境の揺らぎ、そして技術革新が同時に進行する、多層的な様相を示している。日々のニュースは断片的であっても、こうして振り返ると、社会は着実に次の段階へと移行しつつあることがうかがえる。

季節はこれから初夏へと移り変わる。足元の変化に目を向けつつ、一つひとつの動きを冷静に捉え、今後の展開を見通していきたい。

(Y.S.)